問合せ先
島原半島ジオパーク協議会
☎ 65 - 5540

北有馬の石橋群

九州は全国的に見ても石橋が多い地域で、特に美しい弧を描くアーチ式の石橋はその９割が九州に存在するとも言われています。島原半島の中でも、南島原市北有馬町は美しい石橋が複数見られる地域です。北有馬町内には少なくとも10の石橋があり、有馬川の支流に架かる荒田下橋、田中橋、元平橋、坂下橋、面無橋の５つの石橋群は、地方の近代化を象徴する価値を持つとされ、平成31年２月14日に「有馬の石橋群５橋」として、長崎県の有形文化財に指定されました。

これら５つの橋のうち、江戸時代後期に架けられたとされる面無橋には安山岩が、明治から大正時代に架けられた残りの４橋には玄武岩が用いられています。つまり、石橋をつくるのに適した石材としての溶岩が容易に手に入ったことが、この地域に石橋が発達した理由の一つです。しかし、この地域に石橋があるのは別の理由もあります。それは、橋を架けなければ渡ることができない川の存在です。

面無橋

元平橋

北有馬町付近には、約50万～30万年前にもたらされた雲仙火山の噴出物や、海などにたまってできた、さらに古い時代の地層が分布しています。これらの地層は、島原市有明町から南島原市深江町に分布する15万年前よりも新しい時代につくられた地層に比べて水を通しにくいため、降った雨の多くは地面に染み込まずに地表を流れます。地表を流れる水はやがて集まり、川となって大地を削ります。北有馬町付近は長年にわたって大地が削られ続けたため、谷が発達しました。そこで人々は道を確保するために、洪水が起きれば流されてしまう木の橋ではなく、あえて手間のかかる石橋を架け、互いの交流を維持したのでしょう。

地域をつなぐ架け橋として、今も島原半島をつくった溶岩は地域の交流を支えています。

図書館へ行こう！

＼今月の新刊／

『ブラック・ショーマンと覚醒する女たち』

東野　圭吾/ 著(光文社)

【内容紹介】

亡き夫から莫大な遺産を相続した女性の前に、絶縁した兄が現れ「あんたは偽者だ」といいだす。それを聞いていた元マジシャンのバーのマスターは驚くべき謎解きを披露し…。マスターと、彼の魔術で変貌を遂げる女性たちの物語。

【作者紹介】東野　圭吾（ひがしの・けいご）
大阪府生まれ。「容疑者Ｘの献身」で直木賞、本格ミステリ大賞、「夢幻花」で柴田錬三郎賞、「祈りの幕が下りる時」で吉川英治文学賞を受賞。

○島原図書館
（☎ 64-4115）
▶開館時間　9時～ 18 時
※金曜 20 時まで
▶休館日
毎週月曜日
31日(日)は資料整理日

○有明図書館
（☎ 68-5808）
▶開館時間　9時～ 18時
▶休館日
毎週火曜日
(祝日の場合は翌水曜日)
31日(日)は資料整理日

発掘をのぞいてみよう！

「手先がブルブル　注記作業」

「注記作業」

発掘調査などで出土した土器や石器などの遺物は、洗って十分に乾かした後、一つ一つに白や黒の水彩絵具を使い先の細い筆で記号を書いていきます。記号は、遺物の出土年、遺跡名、層位などを組み合わせたもので、例えば2022年に東空閑城跡の１層から出土した遺物は、22ＨＫＪ１層となります。

これを遺物に書くことで、どの遺物がどこから出てきたのかがわかるようにしているのです。

記号が乾いたら、その上からニスを塗り記号が消えないようにします。

このような作業を注記（ちゅうき）といいます。文字の大きさも米粒に書くように小さく、遺物の端に書いていきます。遺物の表面がつるつるした陶磁器などは書きやすいのですが、表面がざらざらした土器などは書きにくく「技」が求められます。いずれにしても細かい作業で手先への神経集中が必要です。

皆さんも市の展示品に書いてあるのを見つけてみてはいかがでしょうか？

問合せ先　社会教育課

第73話「ボーリング②」小西紀行

しまばらん日記

NHK「テレどーも！」の公開収録に行ってきたよ！

２月17日（土）に島原市で公開収録番組「テレどーも!」が開催されたよ!ボクも参加させてもらって、東京のスタジオにいる歌のおねえさんの小野あつこさんやどーもくん、うさじい、たーちゃんとリモートでゲームや歌あそびをして、とっても楽しい1日でした!そして会場には、波田陽区さんもゲストで駆けつけてくれて、会場をたくさん盛り上げてくれたよ!会場に来てくれたみんなと楽しい時間を過ごすことができて、とっても楽しかった～♪

放送日
【Eテレ】
●3月12日（火）
16 時10分～ 16 時40分（予定）
●3月16日（土）
正午～ 12 時30分<再放送>(予定)

市ホームページの「しまばらんの部屋」にも遊びにきてね♪